

テーマ

ジェンダーの視点から スポーツ・運動部活動を考える

適用 分野

スポーツ社会学、ジェンダー
研究、教育学、男女共同参画



研究 名称

運動部における「女子マネージャー」の
抑圧経験に関する社会学的研究

氏名 所属

関めぐみ 准教授
文学部 社会学科

内容

●**特徴** スポーツ環境においては、女性がセクシュアル・ハラスメント（セクハラ）を甘受しやすいことが知られています。実際に、私が大学アメリカンフットボール部で調査を実施した際にも、セクハラ行為をセクハラだと思わない女子マネージャーの存在が明らかとなりました。日本とカナダの大学で調査した結果は、『〈女子マネ〉のエスノグラフィー：大学運動部における男同士の絆と性差別』（2018年、晃洋書房）に執筆しました。

これからの研究の目的は、女子マネージャー制度における制度的な性差別の存在と女子マネージャーがセクハラを甘受しやすい要因について明らかにすることにあります。本研究を通して、スポーツ環境における様々な差別や暴力問題を組織的に解決するための良質なスポーツ・ガバナンス（組織統治）につなげる知見を見出したいと考えています。

●**研究内容** 中学校や高校でマネージャーを置いているほとんどの運動部が男子部、あるいは男子しか入部できない部であり、マネージャーの97%が女子であったという調査があるように、マネージャーの分布には性的な偏りがあります（表1）。

女子マネージャーは、男子選手のために掃除、洗濯、炊事といった「女性的役割」を担ってきたことから、性支配関係を体現していると言われてきました。本研究では、女子マネージャーの活動内容に着目し、彼女たちの「語り」の中から、女子マネージャー制度自体が抱える性差別の存在を詳らかにし、さらに彼女たちの意識構造が形作られてきた要因（環境、ステークホルダー、社会制度等）について明らかにすることを目的とします。

表1 マネージャーの分布表

	男子運動部	女子運動部
女子マネージャー	◎(多い)	△(わずか)
男子マネージャー	○(少ない)	×(不在)



キーワード

ジェンダー、スポーツ、女子マネージャー、セクシュアル・ハラスメント、スポーツ・ガバナンス

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究